

# 営業のご報告(中間)

第121期(平成29年度)  
平成29年4月1日～平成29年9月30日



# ごあいさつ

代表取締役社長

押 味 至 一



株主の皆様には、格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成29年4月1日から平成29年9月30日までの第121期上半期の営業概況について御報告申し上げます。

当上半期の世界経済は、全体として緩やかな成長を維持しましたが、欧米の政策動向の不確実性や地政学的リスクの拡大等により、先行きについては不透明な状況が続きました。

我が国経済につきましては、好調な企業収益や雇用環境の改善等を背景に、民間設備投資と個人消費が持ち直すなど、景気は緩やかな回復基調にあります。

国内建設市場におきましては、建設投資は公共・民間ともに底堅さを維持し、建設コストは総じて安定的に推移しました。

こうした中、当社グループは「中期経営計画（2015～2017年度）」に掲げた方針のもと、単体建設事業の強化に継続的に取り組むとともに、当社グループの強みを活かせる事業領域の拡充と経営基盤の整備を計画的に推し進めてまいりました（当上半期の業績概要については3ページ以降に掲載しております）。

今後の我が国経済につきましては、国際情勢の緊迫化等が世界経済に与える影響に懸念はあるものの、内需の回復に支えられて緩やかに成長していくと期待しております。

国内建設市場におきましては、建設投資は公共・民間ともに当面は堅調に推移する見通しではありますが、今後、大規模再開発や東京オリンピック・パラリンピック関連施設などの工事が集中する時期を迎えることから、建設コストが高騰する懸念があります。

このような見通しの中、当社グループは持続的な成長のために、短期と中長期の両視点から事業環境の変化に対応できる体制の確立に向けた施策を推進しております。

国内建設事業につきましては、今後の繁忙に備えて全社的な見地による受注判断と施工体制の構築を徹底するとともに、省力化・自動化技術の開発等により生産性の向上を図っております。

また、建設業の次世代を支える担い手を確保していくことが重要な経営課題と捉え、魅力的な職場環境の実現を目指す「鹿島働き方改革」を協力会社とともに挑戦してまいります。

グループの強みを活かせる事業領域である国内開発事業、海外の建設・開発事業及び建設の上流・下流分野に係る事業につきましては、着実な成長に向けて収益力の強化に取り組んでおります。

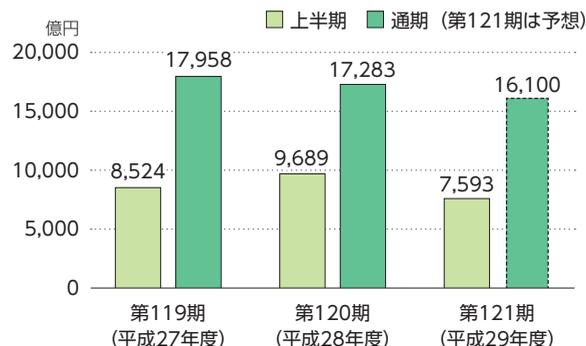
株主の皆様におかれましては、今後とも何とぞ格別の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年12月

## 連結業績の概況（当上半期）

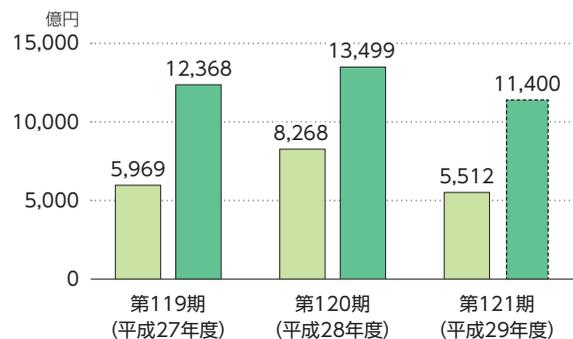
建設事業受注高は、前年同期の国内受注高が高水準であった反動から、前年同期比21.6%減の7,593億円となりました。なお、当社の受注高は、開発事業等を含めて同33.3%減の5,512億円となりました。

### ■ 建設事業受注高 7,593億円（前年同期比21.6%減）



(注) 建設事業に係る受注高を表しており、開発事業等に係る受注高は含まれない。

### ■ 受注高〔単体〕 5,512億円（前年同期比33.3%減）



売上高は、前年同期と同水準で推移し、前年同期比1.2%増の8,227億円となりました。

### ■ 売上高 8,227億円（前年同期比1.2%増）



### ■ 主要受注工事

発注者	工事名称
リゾートトラスト(株)	横浜ベイコート倶楽部 ホテル & スパリゾート及びザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜新築工事
(株)世界貿易センタービルディング 他	世界貿易センタービルディング南館建設工事
(株)オービック	オービック御堂筋ビル新築工事
ANAホールディングス(株)	ASTC (仮称) 建設プロジェクト新築工事
グリーンパワーつがる(同)	ウィンドファームつがる建設工事

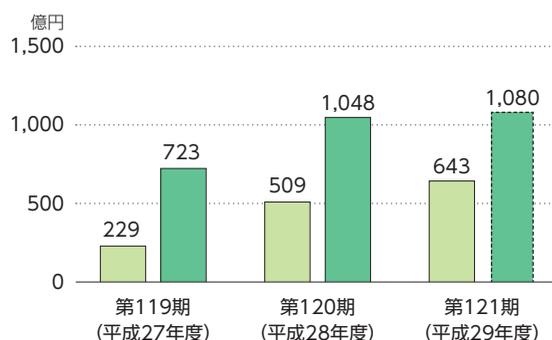
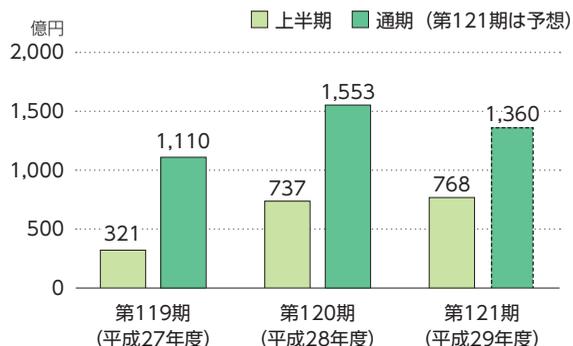
## 連結業績の概況（当上半期）

当社建設事業の利益率向上により完成工事総利益が増加したことを主因に、営業利益は前年同期比4.2%増の768億円、経常利益は同10.3%増の843億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益の増加等により、前年同期比26.4%増の643億円となりました。

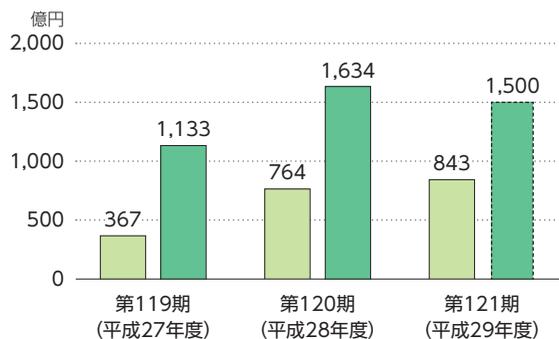
### 営業利益 **768**億円（前年同期比4.2%増）

### 親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益 **643**億円（前年同期比26.4%増）



### 経常利益 **843**億円（前年同期比10.3%増）

### 財産の状況



当報告書に記載の業績予想は、平成29年11月14日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

### GINZA SIX 誕生

2017年4月20日、当社が設計と施工を担当してまいりました銀座エリア最大規模の複合施設「GINZA SIX（ギンザシックス）」が誕生しました。

同施設は松坂屋銀座店跡地を含む街区と、隣接する街区約1.4haを一体的に整備する市街地再開発事業によって建てられました。地上13階、地下6階、延床面積は約14万8,700㎡に及び、241店舗からなる商業施設を中心にオフィス、文化・交流施設のほか、銀座初となる観光バス乗降所やツーリストサービスセンター、銀座エリア最大規模の屋上庭園などで構成され、災害時は約3,000人の帰宅困難者受入れ施設としても機能します。

設計は日本を代表する建築家の谷口吉生氏と当社建築設計本部の協働で行われました。外観デザインの特徴は「ひさし」と「のれん」。銀座の街並みが持つ歴史と美しさを引き立て、伝統的な日本の様式を踏襲したデザインが人々を迎え入れます。

大きさの象徴となるのが「ひさし」です。銀座のあらゆる路地から見えてくる建物が一目でGINZA SIXだとわかるように、ステンレス製のひさしがオフィスの入る上層階をぐるりと巡ります。オフィス部分の日射遮蔽、外部からの給気、メンテナンス用デッキなどの機能も兼ね備えており、水平的な統一感を演出し、メタリックのひさしが夜の銀座の光を映し出します。

「のれん」は、ひさしとは対照的に垂直方向に建物を小さく分節化することで、銀座の細やかな路地の世界に繋がるスケールを表現します。縦に長い店舗が軒を連ねる銀座ならではの街並みや周辺の商業施設との連続性を図っています。のれんを活かし、入居するそれぞれのラグジュアリーブランドが、ブランドコンセプトを基に、建築や空間、そこに使用される素材に至るまでこだわった演出で、様々な顔を創り出します。

施工は2013年7月から松坂屋銀座店を含む一帯の解体工事に着手し、2014年4月に新築工事が始まりました。

銀座の一等地にある世間の注目度が高いプロジェクトであり、何があっても竣工を遅らせることのできない状況の中、所員、作業員全員の“人の力”と当社の“技術の力”を結集することで、2017年1月に建物が無事に完成しました。

GINZA SIXの名称は、銀座6丁目というロケーションに由来しますが、同時に「五感を超越した喜びや満足など新たな価値を提案する」「6つ星級の価値をもった施設である」ことを表現しています。

2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向け盛り上がりを見せる東京において、商業・文化の交流拠点である銀座のアイコンとしての役割が期待されています。



特徴のある「ひさし」



草間彌生〈南瓜〉©YAYOI KUSAMA



## 主な完成工事



### ■ サンシティタワー神戸

場 所：神戸市中央区  
発注者：(株)ヘルスケア・ジャパン



### ■ 古河～真岡幹線シールド (A工区)

場 所：茨城県古河市～茨城県筑西市  
発注者：東京ガス(株)



### ■ エクシブ湯河原離宮

場 所：神奈川県足柄下郡  
発注者：リゾートトラスト(株)



### ■ ヘルス・ノース病院 入院棟

場 所：アメリカ合衆国 フロリダ州  
発注者：フロリダ大学  
(海外現地法人施工)



### 「浜松町二丁目4地区A街区開発」の南館が着工

2017年9月7日、当社が施工を担当する「世界貿易センタービルディング南館（業務棟）」（東京都港区）が着工しました。この工事は、世界貿易センタービルディングを中心に、当社、東京モノレール、東日本旅客鉄道の4社共同で開発する「浜松町二丁目4地区A街区開発」の初弾となります。

「浜松町二丁目4地区A街区開発」は、本年9月に国家戦略民間都市再生事業の認定を受け、東京の玄関口である浜松町駅西の一帯において、高さ約200mの2棟（本館・南館）の業務ビル新築や、東京モノレール浜松町駅の建替え、バスターミナル・歩行者ネットワークの整備などを行い、総延床面積28万㎡超の開発となります。駅周辺の交通結節機能の強化や、MICE機能の整備、外国人滞在者支援機能及び交通・観光サポート機能の導入により国際交流拠点を形成します。また、帰宅困難者受入れスペースと災害支援機能を有し、防災機能の強化も見込まれています。

今回着工した南館は、地上39階建て、延床面積は9万5,239㎡で2021年1月の竣工予定です。



※パースは完成イメージであり、今後変更になる可能性があります。

### シンガポールで超大型複合開発プロジェクトに着手

当社のアジア開発事業統括会社であるカジマ・デベロップメント社と、シンガポール・プレス・ホールディングス社が共同で設立したシンガポール法人は、同国ビダダリ地区土地（2.54ha）にて、住宅・商業の超大型複合開発プロジェクトに着手します。



### 「鹿島サマースクール2017」に767名が参加

当社は7月から約2ヵ月にわたり、中学生や高校生を主な対象者とした全社一斉の現場見学会を実施しました。ESG（環境・社会・企業統治）の取り組み強化を目指し企画したもので、今後も社会貢献活動の一環として、次世代教育に継続して取り組んでまいります。

## 第121期 第2四半期決算の概要

### 第2四半期連結貸借対照表

(平成29年9月30日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
<b>流動資産</b>	<b>1,232,944</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,018,660</b>
現金預金	368,904	支払手形・工事未払金等	461,086
受取手形・完成工事未収入金	507,540	短期借入金	89,826
販売用不動産	65,851	1年内償還予定の社債	20,000
未成工事支出金	103,006	未成工事受入金	229,171
開発事業支出金	28,428	引当金	21,614
その他のたな卸資産	19,045	その他	196,960
その他	141,299	<b>固定負債</b>	<b>311,462</b>
貸倒引当金	△1,132	社債	50,000
<b>固定資産</b>	<b>705,536</b>	長期借入金	126,332
<b>有形固定資産</b>	<b>348,221</b>	退職給付に係る負債	56,829
<b>無形固定資産</b>	<b>10,219</b>	その他	78,301
<b>投資その他の資産</b>	<b>347,095</b>	<b>負債合計</b>	<b>1,330,123</b>
投資有価証券	282,174	純資産の部	
その他	73,476	<b>株主資本</b>	<b>491,038</b>
貸倒引当金	△8,556	資本金	81,447
		資本剰余金	45,304
		利益剰余金	370,818
		自己株式	△6,531
		<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>113,638</b>
		その他有価証券評価差額金	91,556
		繰延ヘッジ損益	△306
		土地再評価差額金	20,011
		為替換算調整勘定	3,847
		退職給付に係る調整累計額	△1,470
		<b>非支配株主持分</b>	<b>3,680</b>
		<b>純資産合計</b>	<b>608,357</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,938,480</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>1,938,480</b>

### 第2四半期連結損益計算書

(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)

(単位：百万円)

<b>売上高</b>	736,635	<b>822,731</b>
完成工事高 開発事業等売上高	86,096	
<b>売上原価</b>	629,020	<b>699,646</b>
完成工事原価 開発事業等売上原価	70,626	
<b>売上総利益</b>	107,615	<b>123,085</b>
完成工事総利益 開発事業等総利益	15,469	
<b>販売費及び一般管理費</b>		<b>46,252</b>
<b>営業利益</b>		<b>76,832</b>
<b>営業外収益</b>		
受取配当金	3,034	<b>10,678</b>
その他の	7,644	
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1,636	<b>3,177</b>
為替差損	715	
その他の	825	
<b>経常利益</b>		<b>84,333</b>
<b>特別利益</b>		
為替換算調整勘定取崩額	4,382	<b>4,891</b>
その他の	508	
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	165	<b>264</b>
減損損失	54	
その他の	44	
<b>税金等調整前四半期純利益</b>		<b>88,960</b>
法人税、住民税及び事業税	17,096	<b>24,590</b>
法人税等調整額	7,494	
<b>四半期純利益</b>		<b>64,370</b>
非支配株主に帰属する四半期純損失		1
親会社株主に帰属する四半期純利益		<b>64,371</b>

### 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	102,196
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,255
財務活動によるキャッシュ・フロー	△99,760
現金及び現金同等物に係る換算差額	△735
現金及び現金同等物の減少額	△3,555
現金及び現金同等物の期首残高	367,473
現金及び現金同等物の四半期末残高	363,917

## 第2四半期貸借対照表の要旨

(平成29年9月30日現在)  
(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
<b>流動資産</b>	<b>866,547</b>	<b>流動負債</b>	<b>767,118</b>
現金預金	234,409	支払手形・工事未払金等	318,145
受取手形・完成工事未収入金等	375,925	短期借入金	39,252
販売用不動産	31,544	1年内償還予定の社債	20,000
未成工事支出金	82,405	未払法人税等	15,603
開発事業等支出金	35,902	未成工事受入金	199,424
その他	106,437	完成工事補償引当金	4,428
貸倒引当金	△76	工事損失引当金	16,370
<b>固定資産</b>	<b>592,114</b>	その他	153,894
<b>有形固定資産</b>	<b>216,599</b>	<b>固定負債</b>	<b>267,048</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>4,317</b>	社債	50,000
<b>投資その他の資産</b>	<b>371,197</b>	長期借入金	94,054
投資有価証券	353,414	退職給付引当金	48,635
その他	27,470	関係会社事業損失引当金	213
貸倒引当金	△9,688	その他	74,145
		<b>負債合計</b>	<b>1,034,166</b>
		純資産の部	
		<b>株主資本</b>	<b>315,665</b>
		資本金	81,447
		資本剰余金	45,378
		利益剰余金	194,840
		自己株式	△6,000
		<b>評価・換算差額等</b>	<b>108,829</b>
		その他有価証券評価差額金	90,645
		繰延ヘッジ損益	△148
		土地再評価差額金	18,332
		<b>純資産合計</b>	<b>424,495</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,458,662</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>1,458,662</b>

## 第2四半期損益計算書の要旨

(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)  
(単位：百万円)

<b>売上高</b>		
完成工事高	504,946	<b>523,256</b>
開発事業等売上高	18,309	
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	413,335	<b>428,585</b>
開発事業等売上原価	15,250	
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	91,611	<b>94,670</b>
開発事業等総利益	3,059	
<b>販売費及び一般管理費</b>		<b>26,363</b>
<b>営業利益</b>		<b>68,307</b>
<b>営業外収益</b>		<b>10,016</b>
<b>営業外費用</b>		<b>2,013</b>
<b>経常利益</b>		<b>76,309</b>
<b>特別利益</b>		<b>429</b>
<b>特別損失</b>		<b>174</b>
<b>税引前四半期純利益</b>		<b>76,564</b>
<b>法人税等</b>		<b>21,128</b>
<b>四半期純利益</b>		<b>55,435</b>

## 会社の概要

(平成29年9月30日現在)

商号	鹿島建設株式会社 (通称 鹿島)
英文社名	KAJIMA CORPORATION
資本金	81,447,203,834円
発行可能株式総数	2,500,000,000株
発行済株式の総数	1,057,312,022株
株主数	54,733名
従業員数	7,783名
主要な営業所等	

本店	東京都港区元赤坂一丁目3番1号 〒107-8388 TEL (03)5544-1111 (代表)
北海道支店	札幌市中央区北二条西四丁目1番地3 〒060-0002 TEL (011)231-5181 (代表)
東北支店	仙台市青葉区二日町1番27号 〒980-0802 TEL (022)261-7111 (代表)
関東支店	さいたま市大宮区下町二丁目1番地1 〒330-0844 TEL (048)658-7800 (代表)
東京土木支店	東京都港区元赤坂一丁目3番8号 〒107-8477 TEL (03)3404-5511 (代表)
東京建築支店	東京都港区元赤坂一丁目3番8号 〒107-8477 TEL (03)3404-5517 (代表)
横浜支店	横浜市中区太田町四丁目51番地 〒231-0011 TEL (045)641-8827 (代表)
北陸支店	新潟市中央区万代一丁目3番4号 〒950-8550 TEL (025)243-3761 (代表)
中部支店	名古屋市中区新栄町二丁目14番地 〒460-0004 TEL (052)961-6121 (代表)
関西支店	大阪市中央区城見二丁目2番22号 〒540-0001 TEL (06)6946-3311 (代表)
四国支店	高松市亀井町1番地3 〒760-0050 TEL (087)839-3111 (代表)
中国支店	広島市南区段原南一丁目3番53号 〒732-0814 TEL (082)553-7900 (代表)
九州支店	福岡市博多区博多駅前三丁目12番10号 〒812-8513 TEL (092)481-8001 (代表)
技術研究所	東京都調布市飛田給二丁目19番地1 〒182-0036 TEL (042)485-1111 (代表)
海外営業所等	中国、台湾、シンガポール、ベトナム、 ミャンマー、インドネシア

## 主要な子会社

国内	大興物産株式会社 (東京都港区) 鹿島道路株式会社 (東京都文京区) 鹿島リース株式会社 (東京都港区) ケミカルグラウト株式会社 (東京都港区) 鹿島建物総合管理株式会社 (東京都新宿区)
海外	カジマ ユー エス エー インコーポレーテッド (米国) カジマ オーバーシーズ アジア ピー ティー イー リミテッド (シンガポール) カジマ ヨーロッパ リミテッド (英国) 中鹿營造股份有限公司 (台湾) カジマ オーストラリア ピー ティー ワイ リミテッド (オーストラリア)

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-782-031
公告方法	電子公告 (アドレス) <a href="https://www.kajima.co.jp/">https://www.kajima.co.jp/</a>

(住所変更、単元未満株式の買取等の御案内)  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、特別口座の株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 特別口座の株主様へ

「特別口座」は、株券電子化までに株券をほふりへ預託されなかった株主様の権利を保全するため、当社が株主様の名義で、三井住友信託銀行株式会社に開設した暫定的な口座です。  
特別口座の株式は単元未満株式の買取りを除き、特別口座のままでは売買できず、売買するためには、株主様が証券会社に開設した口座へ「振替」(株数等の記録を移す)手続きが必要になります。お早めにお手続きされることをお勧めします。(振替手数料無料)  
特別口座からの振替手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社、又は、お取引の証券会社へお問合せください。

表紙：日比谷パークフロント (東京都千代田区)  
〔当上半期完成〕